

令和5年度 金沢型学習スタイル実践推進事業 報告書

西小学校	読む力・話す力向上推進校	
------	--------------	--

1 研究の重点と具体的な取組

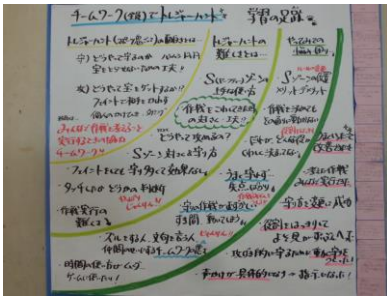
テーマを「読む力・話す力を使って、主体的に解決しようとする子」とし、教師がつけたい力を明確にもち、児童が、読む力・話す力を土台にして自分の考えをもち、考えを伝え合うなかで、主体的に粘り強く課題を解決しようとする姿をめざし、2つの重点に取り組んだ。

(1) 重点1 「読むわざ（考えわざ）」を適切に活用させるための手立て

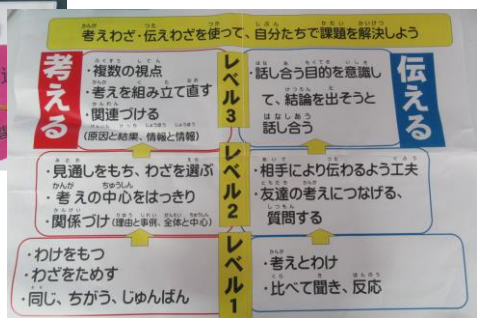
つけたい資質・能力をつけるために、必要な「考えわざ」（見方・考え方）を児童が適切に活用できるよう手立てを講じた。具体的には、考える視点が生まれるような資料の提示、視点に気づかせる発問や教具、場の設定、思考ツールの活用、児童の意識や思いを大切にした授業設計等を行った。

(2) 重点2 「話すわざ（伝えわざ）」を適切に活用させるための手立て

つけたい資質・能力をつけるために、児童が、課題解決に向けて主体的に話し合う姿をめざし、主体的な話し合いに必要なスキルを「伝えわざ」とし、「伝えわざ」を活用させるための手立てを行った。具体的には、交流モデルや話形の提示、多様な交流形態、児童の相互評価等を行った。



- ・「考えわざ」「伝えわざ」とともに、昨年度児童と見つけたわざを「教科共通の実」「各教科の実」として位置づけ、他の学習でも活用できるようにし、板書に実を位置づけた。
- ・学年の系統性を図るため、「考える姿・伝える姿系統表」を掲示し、各学級で自分たちに実態に即しながら学習のめあてを設定し取り組んだ



2 取組の検証

(1) 児童アンケート

検証項目（数値は肯定的評価の割合）	7月	12月
考えわざ、伝えわざの活用を通して、自分の考えを深めたり広げたりすることができた	95%	93%
自ら進んで学習できた	97%	97%
児童がノートに考えを書けているか（4教科平均）	85%	87%

(2) 教員アンケート

検証項目（数値は肯定的評価の割合）	7月	12月
つけたい力を明らかにして、児童が考えわざ、伝えわざを活用しながら理解を深める授業を行っている（教員アンケート）	100%	100%
自分の考えをノートに書けている児童の割合（教師の見取り）	89%	90%

3 成果と課題

(1) 成果

- ・児童自身が「わざ」を選び考えようとする姿がふえた。自分の力で考えることが難しい児童も自ら取りかかることができる。
- ・全員参加の授業に近づいた。安心感をもって学習できる。
- ・話し方を児童間で相互評価することにつながった。自ら伝え方を工夫する姿が見られた。
- ・教師にとっても、授業の中で児童に働かせたい「見方・考え方」がはっきりした。各教科の見方・考え方を意識した授業作りにつながった。
- ・リーディングスキルテストでは、昨年度と比較して、すべての項目の偏差値が上昇した。

(2) 課題

- ・「考えわざ」の提示がパターン化してきており、児童が必要感をもって活用している姿は少ない。児童が必要感をもって「わざ」を活用できるような課題設定等を工夫していきたい。
- ・重点の取り組みを行ってきたことと、児童の「考える力」が向上の関連性について検証が不十分だった。検証の仕方を吟味する必要がある。
- ・「伝えわざ」については、「わざ」として実を提示して意識させていくよりも、話形や話し方の系統表を提示して、学習の基盤として指導した方がよい。